

# さけ・ます増殖事業振興調査 (親魚回遊経路調査) (抄 録)

後藤悦郎

前年度に引き継ぎ沿岸、神戸川、高津川について採捕した親魚の年令組成、体長組成、体重組成、回帰尾数などを調査した。また、今年度より新たに一級河川江川について親魚回機時期に河川を巡視してその状況を観察した。

高津川では昭和57年度より100万粒程度の発眼卵を北海道より移入し、その稚魚を放流している。従って今年度がその3年目に当たるので放流効果を調査した。その他に天然親魚から採卵したものと、移入した北海道卵の飼育、河川内における稚魚の追跡調査も実施した。なお、詳細は別に報告書(島水試資料№34)があるので参照されたい。

## 要 約

1. 本県沿岸、神戸川、高津川でシロザケ回帰親魚を採捕した所、沿岸34尾、神戸川38尾、高津川31尾の合計103尾を数えた。
2. 年令は全体では4年魚が7割と最も多く、次いで3年魚と5年魚の1.5割であった。昨年3年魚が5割程度を占めていたのと比べると高令化しており、特に高津川の5年魚の割合が多かった。
3. 回帰の盛期は沿岸で10月中下旬、高津川、神戸川で10月下旬から11月上旬であった。回帰時期は3河川の情報では10月上旬から12月上旬までと思われる。
4. 雌雄比は沿岸、河川とも雄がやや多く全体では雄62.1%、雌37.9%であった。
5. 高津川に北海道産の稚魚の放流を開始してから3年目であったが、放流した支流の匹見川には3年魚が一尾も回帰しておらず放流効果が無かったものと思われる。
6. 天然親魚からの採卵飼育は神戸川では22000粒採卵、2月14日まで飼育し平均3.8gのもの10000尾を、高津川では7400粒採卵、4月8日まで飼育し平均0.80gのもの7000尾を生産した。
7. 高津川の天然親魚の天然産卵した稚魚や放流魚は4月下旬までに降海を完了した。
8. 高津川の天然親魚の人工採卵から得られた稚魚は天然親魚の天然産卵のものとは平均値ではやや大きかった。一方北海道産のものは平均値はその小型のものと同じであった。